

NPO

これから未来を担う人たちに、 夢のある未来を描いてほしい。

3.11あの時
P25 Report. 11の続きです

仙台市

山岡 講子 NPO 法人環境会議所東北

取材日 2012.08.24

地域を中心に環境と経済の独立に向け環境ビジネスの促進を目的に活動に取り組む。毎年「エコプロダクツ東北」を開催してきたが、2011年度は東日本大震災の影響で中止に。2012年度は企業のビジネスチャンス場、また個人が暮らしを見つめなおす場となることを期待して「再生と復興（幸）」をテーマにエコプロダクツ東北を開催した。

みやぎの明日が見える 「アスネットみやぎ」立ち上げへ

大震災の混乱の中でいち早く被災地へ向かい、支援活動に取り組んだ。身体は疲れきっていたが「いつまでも止まってはいられない。前へ進むために、私たちにできることは何か？」という問いが常に頭の中を巡っていた。被災地を実際に目の当たりにした時は、人間の無力さを感じたが、ある企業が諦めずに希望を持ち、前に進もうとしている姿を見て勇気づけられた。このような企業のために、私たちはできる範囲でできることをやるしかない。2011年10月まで、気仙沼など宮城県沿岸部の商店街を取材しながら回り、「被災地を忘れないでほしい」「いくら建物が復旧しても、作ったものが売れないんだ」という現地の声を聞いた。そこで、全国に向けて被災地の情報をWeb-siteで発信しようと考えた。再開情報、販売情報をスピーディーに広く発信することで、少しでも経済循環に貢献できればいいと思った。紙媒体による情報発信も重要だが、インターネットによる情報発信の必要性を強く感じた。情報発信の方法は多様化していて、どれも長短がある。とにかく少しでも多くの方に被災地の現状を知ってもらいたくて、2011年11月にWeb-site「アスネットみやぎ」を立ち上げた。

間接的な支援の重要性

「アスネットみやぎ」には、97社が登録されている（2012年8月現在）。復興に向けて頑張っている県内の企業や団体、商店や生産者、震災後新たに立ち上がった企業を紹介している。多様な情報を一元化し、「ここを見れば、宮城県内で頑張る方々の情報が分かる」Web-siteを目指している。他にもインターネットによる情報公開サービスはあるが、アスネットみやぎは登録料や情報掲載にかかわる経費が無料である点でも大変好評をいただいている。登録している企業は取材の際に直接お声がけしたところであれば、評判が広まり企業



側から掲載依頼がくることもある。

直接的な支援も大事だが、ある一定期間が過ぎれば自立に向けて、こうした間接的な支援が必要であると考えている。多くの方が宮城の現状を知ることによって、「購入支援」をはじめとした支援の輪が広がり、経済活動の助けになり、復興につながってほしい。

「エコプロダクツ東北、 来年度は絶対にやるぞ！」

私たちNPO法人環境会議所東北は、「地域を中心とした環境と経済の独立」に向け環境ビジネスの促進を目的に様々な活動を行ない、その大きな活動として「エコプロダクツ東北」を毎年開催してきた。2011年も「エコプロダクツ東北2011」を企画、実施に向けた準備をしており、その矢先の東日本大震災だった。会場である夢メッセみやぎが津波の被害で年内使用不可となったため「エコプロダクツ東北2011」の開催は中止せざるを得なくなった。

1年間の充電期間を経て、今年10月19、20、21日の「エコプロダクツ東北2012」は、「届けよう！未来への贈り物」「再生と復興（幸）」をテーマに開催する。大震災を契機として、私たちはライフ

スタイルやエネルギー問題を真剣に考えるようになった。防災から環境・エコ、さらには低炭素社会、カーボンニュートラルなど、これまで環境分野の人たちが使っていた言葉が、一般社会に浸透するようになってきた。今一人ひとりがすべてのライフスタイルを見つめ直さなければならない時期にきていると感じている。エコプロダクツ東北で少しでもその発信を行なうことで、暮らしを見直すきっかけとなることを願っている。

大切なのは「連携」

「エコプロダクツ東北2012」参加企業の半分は、今年初めて参加して下さる企業だ。宮城県内の企業が多いが、復興支援をしたいという県外の企業からも申し込みがあり、北海道や長崎からの参加予定もある。これまでのエコプロダクツとは大きく違う点だ。宮城県内のいつも出展して下さる企業は、復興のための忙しきでなかなか参加できない状況であるのは確かだ。しかし、日本全国の環境ビジネスに取り組む企業がビジネスチャンスと捉えて出展することで、エコプロダクツが出展者同士のビジネスマッチングや交流の場にもなっていくだろう。

また、今年は「アスネットみやぎ」に掲載した企業を中心に声がけをして、新設する復興市ブースに出展してもらう予定だ。復興に向けて頑張っている企業のこれまでの歩みを紹介する側面もあるが、知る人ぞ知る被災地のお店を知ってもらう機会を提供したい。多くの人に、実際に商品を手にとって見てもらえる場所を作ることで、少しでも経済が循環し、皆さんの収入につながればいいなと思っている。

私たちは出展して下さる皆さんがいるから「エコプロダクツ東北」を開催することができる。環境会議所東北は、さまざまな方々とのコラボレーションで組織を作ってきた。私たちだけでなく、いろいろな企業や団体が連携して協力し合っている。昨年度、取材活動で現地を歩いて得た情報をどのように展開していくか、私たちにできるお手伝いは何かを考えた時、企業が自立してより良い方向へ歩んでいくために多くの人々を巻き込んで、「エコプロダクツ東北」のような多くの人々が連携しあう展示会を毎年つなげていくことが必要だと思っている。



撮影：2012.10.21 仙台市「エコプロダクツ東北2012」

「届けよう！未来への贈り物」

「エコプロダクツ東北2012」は、ビジネスパーソンだけでなく一般来場者も対象だ。経済的自立がなければ生活することができないので、すべての人にビジネスチャンスが必要だ。さらに大震災をきっかけに露呈したエネルギー問題に直面し、すべての人がライフスタイルを見つめ直さなければならない時期にきている。ただ「原発反対！」と言うだけでは何も始まらない。代替できるエネルギーを考えなければならないと思っている。そこで、エコプロダクツ東北の中でエネルギーがテーマのシンポジウムを企画している。藻を使って下水処理をする、波力でエネルギーを作る研究が進められている話を聞くことで、原子力に頼らずにエネルギーを作ることができる未来が開けていることを知ってほしい。こうした話を聞くことで、私たちが日々の暮らしで使用するエネルギーを減らしていこうと意識が変化していくきっかけになるかもしれない。このシンポジウムの「未来は明るいよ」というメッセージを受け取った学生が「将来はこんな仕事に就きたい」と夢を持つきっかけになるかもしれない。国にばかり頼らず、これから未来を担う人たちが知識を得て、夢のある未来を描いてほしい。

大震災後1年間のブランクを充電期間と置き換え、「エコプロダクツ東北2012」がビジネスチャンスの場、また一人ひとりが生活や仕事を見つめ直す場となることを期待している。